

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°12 ピエール=オリヴィエ・ボノーム

生産地方：ロワール

新着ワイン3種類♪

AC トゥーレーヌ ラ・テニエール 2015 (白)

2015年の白は当たり年！ムニユピノとシュナンは収穫中に雨に当たりブドウの潜在アルコール度数が少し落ちたが、最終的には12.5%と理想のバランスに収まった！ワインはピュアで透明感があり、ムニユピノらしい細く伸びのある酸と熟したシュナンのほのかな甘さがきれいに融合されている！じわっと口の中に染み入る酸は、魚介のさっぱりとした料理と相性が良さそうだ！

VdF ラ・テニエール 2015 (赤)

2015年は、自社畑のピノドニスと鹿と鳥にほとんど食べられてしまったため、代わりにアラン・コクトーと同じくシェール川沿いのエリアに畑を持つビオ生産者のタルデューからピノドニスを初めて購入している！日照量に恵まれた年だから力強いパワフルな味わいだと思いきや、実際仕上がったワインはアルコール度数が12%と低くとてもエレガントな味わい！ピエロー曰く、2014年のスズキ襲来の二の舞を恐れ、ブドウが健全なうちに少し早めに収穫したそうだ。スズキの襲来はなかったが、その早めの収穫が功を奏し、ピエロー好みの果実味がジューシーで輝きと躍動感のあるチャーミングなワインに仕上がったようだ！最初に感じる爽やかな果実味と後から優しく引き締めるタンニンがとても心地よく、近年の中でもとりわけ美しく、うまい！

AC トゥーレーヌ ピノ・ノワール 2015 (赤)

前回まで買いブドウ生産者であったフランク・リオからブドウが手に入らなくなったのに加えて、新しく提供者となったフィリップ・ビュグレのブドウも鹿と鳥の被害により収量が激減…。結局、2015年は400L樽1樽分しかできなかった。だが、出来上がったワインは、ピエロー曰く「過去最高の出来栄え」とのこと！師匠のティエリも「オヴェルノワのプルサルを彷彿させる！」と絶賛している！100%マセラシオン・カルボニックで仕込み、ノンフィルター、SO₂無添加で仕上げている！赤い果実にシャクヤクの花や柑橘系の香が入り混じる官能的な香りと染み入るようにやさしくピュアなミネラルエキスが口の中で合い舞う、とても上品で贅沢なピノノワールだ！

ミレジム情報 当主ピエール=オリヴィエ・ボノームのコメント

2015年の白は2009年や2005年に匹敵する当たり年！だが、とりわけピノノワールにとっては散々な年だった…。春のスタートは雨も比較的多く涼しい気候で、発芽もやや遅れていたが、5月に入り雨の降らない乾燥した天気が8月いっぱいまで続いた。雨が降らなかったおかげで開花もうまく行き、ブドウの病気はほとんど蔓延することがなかった。だが、夏は日照りの影響で順調に成長していたブドウもバテ気味になり、成長にブレーキがかかり始めた。9月に入り恵みの雨となる50mmのまとまった雨が収穫前に降り、水不足のブドウの渴きを若干潤してくれた。どのブドウも傷ひとつないきれいな状態にあったが、不幸にも自社畑のピノノワールと一部ピノドニスとが、鹿と鳥の餌食となり収穫する前に動物たちに収穫され全滅…。幸いにもその他のブドウは無事きれいな状態のまま収穫することができた！ただ、収穫が早かったブドウは良天候の中完熟した潜在アルコール度数の高いブドウを収穫できたが、後半から天気が崩れ、晩熟の白や赤のブドウはほぼ雨の中での収穫となってしまった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

ピエローの新しいカーヴがついに完成し、今年の収穫から稼働し始めた！カーヴの広さはワイン倉庫も合わせるとざっと400 m²！ちょうど小学校の体育館並みの広さだ！高さも20 m近くあり、長さのあるタンクもフォークリフトの上げ下げも楽々とカバーできる！

以前のカーヴは今の面積の4分1もなく、樽とタンク全てが入り切らず、毎回作業ごとにスペースを確保するために樽やタンクを外に出さなければならず、とても効率が悪かったようだ。ピエロー曰く「時にはタンクの置く場所に数センチの誤差があっただけでその横に設置するタンクのスペースがわずかに足りなくなり、全て一からやり直しということもあった。またスーティラージュ時にスペースがない時は一時的にタンクを外に置いて、一人が樽のワイン、一人がポンプを監視、そしてもう一人が外のタンクを監視と最低3人必要だったり、とにかく効率が良くなかった。極めつけは収穫時で、毎回ブドウが入ってくるたびにまるでゲームのテトリスをしているかのようにハチャメチャだった」と。

だが、今回の新しいカーヴは有り余るくらいのスペースがあるので、その辺の問題は全て解決できるようだ！「外に樽やタンクを置く必要がなくなるので、衛生面はもちろん、スペースがあることで作業効率が上がり、ワインの品質が今以上に向上することは間違いないだろう！」と笑みをこぼしながら語ってくれた♪

改築以前の屋根に穴の開いた吹きさらしのバラックのような建物の原型を知っているのだから、見違えるようにきれいになったカーヴに驚いているのだが、改築に相当の費用がかかったのでは？と心配で聞いてみたところ、彼曰く、ほとんどピエローと彼の友人たちで行ったそうだ！何でも趣味の延長で、自分たちでブリコラージュ(大工仕事)してしまうのはフランスのお国柄だが、それにしてもカーヴの入り口から床のコンクリート張り、2階の事務所まで全て手作りとは、改築前の状態を知る自分は未だに信じられない気持ちだ・・・

(2016.8.22.のドメーヌ突撃訪問より)